

弾き歌いに関する一考察

— 教育実習事前指導の観点から —

A Study of Play the Piano with Singing

— From the Viewpoint of Advanced Guidance of Teaching Practice —

金 指 初 恵

KANAZASHI, Hatsue

はじめに

平成18年7月11日に中央教育審議会から、「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」が示された。その中に「教職課程の質的水準の向上」として「課程認定大学は、教員を志す者としてふさわしい学生を、責任を持って実習校に送り出すことが必要である。各大学においては、これまでも、教育実習の履修に当たって、あらかじめ履修しておくべき科目を示すなどの取組が行われてきたが、今後は、履修に際して満たすべき到達目標をより明確に示すとともに、それに基づき、事前に学生の能力や適性、意欲等を適切に確認するなど、取組の一層の充実を図ることが必要である。」⁽¹⁾と述べられている。

一方、教育実習生を受け入れる幼稚園では、園のカリキュラムに沿って成果を上げるべく日々の指導を充実させる努力をする中で、実習生の指導に時間と労力を費やされることは本意ではないだろう。致し方ないとする半面、免許を取るためだけで実習に出るという準備不足の学生の対応に、腹立たしさを感じている幼稚園も少なくない。実習生を送り出す大

学側としては、より有意義な実習ができるように、実習事前指導においても、既習の学習内容の定着を振り返り、十分な実践力を付けて送り出すということが求められるだろう。

教職課程で勉強する学生にとって、教育実習は、実践的経験を通して、自らの適性を考える機会であるとともに、教育への熱意を育てる貴重な体験の場でもある。埼玉学園大学人間学部幼児発達学科⁽²⁾（以下本学）では、幼稚園実習を控えたほとんどの学生が、2年次に保育所実習を経験しており、ある程度の幼児理解はできていると考えられる。しかし、教育実習を行う前の学生たちは、未知の世界である幼稚園での実習に対して、楽しみな気持ちや期待する前向きな気持ちを抱く半面、大きな不安も感じている。

本学の平成17年度入学生および18年度入学生の幼稚園教諭免許取得希望者に対して、3年次（実習Ⅰ）の実習前後および4年次（実習Ⅱ）の実習前後に実施したアンケートでは、多くの学生がピアノを使った活動を不安の要因として挙げている。養成校としては、学生たちが苦手なことを不安材料として抱えたまま実習に送り出さないようにしなければなら

キーワード：弾き歌い、教育実習、指づかい

Key words: Play the Piano with Singing, Teaching Practice, Fingering

を作るためにも重要な時期である。幼児の音楽的発達、心身の発達と切り離して考えることはできない。しかも、その音楽自体が、子どもたちの生活している家庭や社会や、文化の中での事象と深く関わっている。何よりも、「子どもにとって音楽は遊び」なのである。幼児の音楽活動は、歌うこと、リズムを叩くこと、楽器を使って音を楽しむこと、遊びの中で口ずさむこと等、毎日の生活の中で「音楽」という形になって現れるものだけではない。保育者には、幼児の活動の中から自発的に現れる音楽を見逃すことなく、音楽表現へと育てていくことが求められる。更に保育者は、幼児の自発性や興味がより豊かに展開できるように、適切な援助をしていかなければならない。

それには、保育者自身が豊かな音楽性を身につけていることが必要となる。音楽を通して幼児と向かい合うとき、保育者の豊かなパフォーマンスは幼児の気持ちを引き付ける。その結果、幼稚園教育要領のねらいである「(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。」ことを可能にするのである。

豊かな音楽性＝ピアノを上手に弾けることや上手に弾き歌いできることではないが、上述の「十分な専門的知識・技能」の一つとして必要な能力であると言うことができるだろう。

4. 幼稚園実習における音楽的活動

3年次での実習前にピアノに関わる不安を持っていたのは、平成17年度入学の実習生(以下H17生)の22%、18年度入学の実習生(以下

H18生)の25%であった。また、事前準備としてピアノの練習をしたと答えたのは、H17生の34%、H18生の26%であった。その中で、不安を持っているのでピアノの準備をしたという学生は、H17生では不安を持っている学生の20%、H18生では7%だけであった。これは、不安は感じているものの、苦手なことを避けてしまったということではないだろうか。

実習Ⅱの中で、どのくらい弾き歌いをしたかを以下に示す。

	H17生	H18生
ほとんど毎日	22%	27%
7回以上	7%	9%
5～6回	11%	20%
3～4回	22%	20%
1～2回	13%	11%
全く弾かなかった	25%	13%

ピアノを弾いた場面	H17生	H18生
朝の会	52%	56%
昼食時	60%	61%
帰りの会	60%	66%
集会	2%	2%
歯磨きの時	2%	
活動と活動の間	2%	
礼拝	3%	
ゲームで		2%
片付け		2%
歌の練習		3%

実習生がピアノを弾くのは、「生活」の場面、つまり「食事、衣服の着脱や片付けなどの生活習慣にかかわる部分」が多く、具体的には、朝の集まりでの挨拶、お弁当の時間、降園時の挨拶などの歌である。集団生活を営むという社会性を養ったり、静かにしなければならぬ態度を身につけたりさせるために音楽を用いているのである。それは、幼稚園教育要領に示されている「感じたことや考えたこと

弾き歌いに関する一考察

を自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」という、表現のねらいに基づく実践の場面とは考えられない。

次に、実習園から、事前に楽譜を頂いて練習しておくように指示されたり、事前に言われていなかったが実習中に弾き歌いした曲名と人数を以下の表に示す。() は事前に練習を指示されていなかったが、実習中に弾き歌いをした人数である。

H17生		H18生	
おべんとう	26(7)	おべんとう	25
お帰りの歌	20(5)	お帰りの歌	24(3)
おはようのうた	17(3)	さよならのうた	14(1)
さよならのうた	8(1)	おはようのうた	13(4)
すてきなパパ	5(1)	お弁当の歌	9(4)
ニャニユニョの天気予報	5	おはよう	8
時計の歌	5	かたつむり	7(8)
朝の歌	5	園歌	7
歯を磨きましょう	4(1)	雨降り熊の子	5(4)
大きな古時計	4(1)	すてきなパパ	5(1)
かたつむり	3(8)	時計の歌	4(2)
あまだれポットン	3	おねむりの曲	4
園歌	3	お祈りの曲	3
黙想の曲	3	お手手を洗いましょう	3
雨降り熊の子	2(2)	お片付け	3
たなばたさま	2(1)	ののさまに	3
1,2,3でごあいさつ	2	ゆりかご	3
おつとめ	2	夜が明けた	3
お手手を洗いましょう	2	あまだれポットン	2(2)
さんぽ	2	ちょうちょう	2(2)
だから雨降り	2	歯を磨きましょう	2(2)
ねね	2	大きな古時計	2(2)
給食の歌	2	1,2,3でごあいさつ	2
お片付け	1(3)	なんでも食べる子	2
チューリップ	1(1)	手のひらを太陽に	2
手を叩きましょう	1(1)	朝の歌	2
森のくまさん	1(1)	天のおとうさま	2
キラキラ星	(6)	虹の向こうに	2
かえるの歌	(4)	かえるの歌	1(7)
ちょうちょう	(3)	散歩	1(6)
ぞうさん	(2)	子守唄	1(2)
とけいのうた	(2)	こもりうた	1(1)

ふしぎなポケット	(2)	ニャニユニョの天気予報	1(1)
散歩	(2)	雨降り	1(1)
アヴェマリア	1	森のくまさん	1(1)
あさのごあいさつ	1	Good Morning	1
ウルトラマンの歌	1	アイアイ	(1)
うれしいお弁当	1	アイスクリームの歌	1
おうま	1	アマリリス	(1)
おきよの歌	(1)	あめのきさき	1
おせんべい	1	ありさんのお話	1
おたまじゃくし	1	お胸を張りましょう	1
おつかいありさん	1	お手手を合わせて	1
おねむりの歌	(1)	お誕生日	1
おひさまきらきら	1	お誕生日会	1
おんまはみんな	(1)	お当番を呼ぶ曲	1
お祈り	1	お当番紹介	1
お祈り「すわにがわ」	1	お父さん	1
お誓い	1	ガンバリマンの歌	1
お父さん	1	キラキラ星	(2)
かばさんのすいどう	1	ごきげんいかがですか	1
今日もとっても元気です	1	さようなら	1
きれいな心に	1	さよならマーチ	1
くらげのさんぽ	1	しっている	1
けさもわたしも	1	しゃぼん玉	(1)
こもりうた	1	線路は続くよどこまでも	1
こんべいとう	(1)	だから雨降り	(1)
さよならほとけさま	1	チューリップ	(1)
さよならマーチ	1	てるてる坊主	(1)
しゃぼんだま	1	ドラえもん歌	(1)
せんせいおはよう	1	ドレミの歌	1
ちいさいおてて	1	にじ	1
どこでしょう	1	バスごっこ	1
ドレミの歌	(1)	ばらばら落ちる	1
トントントン四けんさん	1	ふしぎなポケット	1
なんでもたべる子	1	ホッホッホ	1
にじ	1	めぐみのかみさま	1
ねむりの歌	(1)	メリーさんの羊	(1)
ねむれねむれ	(1)	ランランランチ	1
はたけのポルカ	1	右から2番目の星	(1)
パパの歌	1	起きましようの歌	(1)
ばらばら落ちる	1	起きよの曲	1
ホッホッホ	1	空に落書き書き描きたいな	1
ミッキーマウスマーチ	(1)	犬のおまわりさん	1
めぐみの神様	1	幸せなら手をたたこう	(1)
めだかの学校	(1)	子どもの世界	1
モグモグパクパク	1	子供会の歌	1
やぎさんゆうびん	(1)	手をたたこう	(1)
ゆりかごのうた	(1)	出発だ	1
楽しいね	1	小鳥たちは	1

起きる歌	1	人間ていいな	(1)
空に落書き書き描きたいな	1	水でっぼう	(1)
君の声	1	星に願いを	1
子守唄	1	青い空に絵を描こう	1
手はおひざ	1	先生とお友達	1
神様といつも一緒	1	大好きお友達	1
水遊び	1	長靴マーチ	1
先生とお友達	1	当番を呼ぶ歌	1
朝のごあいさつ	1	動物園へ行こう	1
当番の歌	1	南の島のハメハメハ大王	(1)
当番紹介のうた	1	仏の子ども	1
虹の向こうに	1	仏様	1
		黙想の曲	1
		友達の歌	(1)
		良い子の挨拶	1
		礼拝の曲	1

この表から以下のようにまとめられる。

- ①「おはようのうた」「おべんとう」「お帰りの歌」「さよならのうた」が多いのは、毎日繰り返される活動を部分実習として設定し、その中で弾き歌いした実習生が多いためと考えられる。
- ②「かたつむり」「あまだれポツタン」「ニュニョの天気予報」「雨降り熊の子」など、6月という季節を意識した曲が多い。
- ③「すてきなパパ」「時計の歌」「大きな古時計」が多いのは、6月には‘父の日’や‘時の記念日’があるためであろう。「歯を磨きましょう」は、毎日の生活の歌とも考えられるが、6月は‘虫歯予防デー’があるためと考えられる。
- ④設立が仏教やキリスト教など、宗教の理念に基づく幼稚園の場合は、「お祈りの曲」「黙想の曲」「ののさまに」「天のおとうさま」などの楽譜が事前に渡されている。
- ⑤「園歌」の練習を事前に指示されていた学生が、17年度入学の学生より18年度入学の学生の方が多いのは（17年度生46%、18年度生62%）、実習Ⅱの幼稚園を実習Ⅰと同

じ幼稚園を選んでいる学生が多い（H17生では59%、H18生では81%）ことが理由の一つとして考えられる。

- ⑥実習Ⅱで、事前に練習しておく曲を指示されなかった学生は、H17生では28%、H18生では16%いたが、実習中に弾き歌いをした曲を見ると、ピアノの得意な学生は「散歩」「雨降り熊の子」などの難易度の高い曲を選んでいるが、苦手意識のある学生は「キラキラ星」「かたつむり」「かえるの歌」「ちょうちょう」などの易しい曲を選んでいる。

5. 弾き歌い指導における課題

実習Ⅰの事前指導の中で、「幼稚園で子どもたちと一緒に歌う曲を2曲選んで弾き歌いする」という時間を設けた。ほとんどの学生が、2年次に授業で練習した曲を持って来た。11月に実習に行くことから、「どんぐりころころ」「とんぼのめがね」「まつぼっくり」などが多かった。

子どもたちと歌うことを楽しむための曲というより、初心者でも簡単に弾ける易しい曲を選んで持ってきた。その理由を尋ねると、「皆の前で間違えて恥ずかしい思いをしたくない。」という消極的な理由に因るためであった。これらの易しい曲であっても、途中で止まって何度も弾きなおしたり、声が小さくて歌詞が聞き取れなかったりという状態であった。

その指導をする中でいくつかの共通する指摘をしたが、そこから指導のポイントを述べていくことにしたい。

1) reading errorとmis-touch

さて、間違いには大きく分けてreading errorとmis-touchがある。reading errorは、所謂、楽譜の読み間違いである。

演奏途中で止まってしまう学生に、次のメロディーの階名を尋ねると、答えられない場合が多かった。学生たちは、レッスンの経験から、階名が分かればその鍵盤に指を運ぶことができるようになってきている。例えば「ソラソファミ」と歌ってから弾くように促すと、



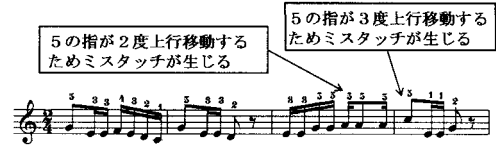
と演奏することができる。従って、まずメロディーを階名唱してからピアノを弾くことが、途中で止まらないための近道といえる。拙著「初等教育科教員養成課程におけるピアノ指導の一考察—初心者における教材—」⁽⁵⁾の中で、子どもの歌650曲を分析したが、子どもの歌は9度以内の音で作曲されている曲が多い上、ハ長調・ト長調・ヘ長調の曲、つまり調号が#・b各1つずつ以内の曲が多いことから、読譜は大きな困難を伴うものではないと言えるだろう。しかし、ピアノを弾く上では階名が分かっていることが必要であるにもかかわらず、歌を伴うことで頭の中には歌詞が浮かんでいる。弾き歌いの難しさがある故に、次に述べる指づかいの問題を解決することが安定したピアノ演奏を可能にし、歌うことに集中できることにつながるのである。

さて、指づかいについてであるが、行き当たりばったりで演奏している学生が多かった。mis-touchが多いのは、まさにこの原因に因るものであると言っても過言ではない。

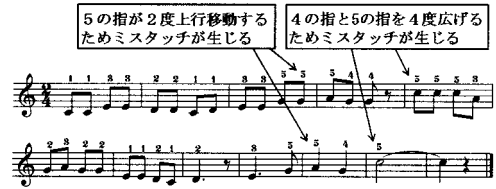
最初の例は、「どんぐりころころ」「とんぼのめがね」「おべんとう」「お帰りの歌」を、以下の指づかいで演奏している学生が多かつ

たことである。

「どんぐりころころ」



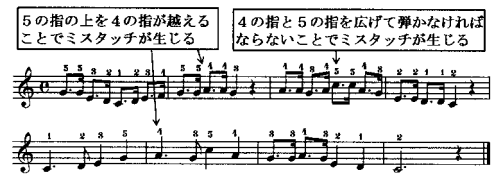
「とんぼのめがね」





「おべんとう」



「お帰りの歌」



この3つの曲が、どちらも2つのポジション  (図1)と  (図2)で演奏することに気付けば、以下のような指づかいで弾くことが望ましい。

「どんぐりころころ」



「お帰りの歌」



どの曲も ♪ のリズムを多く使っていることが分かるが、リズムを正確に演奏できた学生は少なかった。♪♪ と ♪♪ の区別ができていなかったことと、♪ を ♪ と演奏していたことが特徴的である。♪ のリズムは、上記の曲以外の子どもの歌にも非常に多く使われていることから、リズム唱をしたり、リズムを手で叩いたりなどして、正確なリズムで演奏できるようになることが望ましい。

3) 歌詞に関わる課題

子どもたちは教師の歌を模倣することで、音楽を吸収する。教師の発音が曖昧だと、子どもたちは自分の世界にある言葉に置き換えて発音する。例えば、「どんぐりころころ どんぐりこ〜」は「どんぶりこ〜」が正しい歌詞である。「ある日 森の中 くまさんに(熊さんに)出会った」が「うまさんに(馬さんに)」になってしまったり、「焚き火に 火遊び き(気)をつけましょう」を「ひ(火)をつけましよう」と歌ってしまうのを笑ってられない。

歌唱教材の多くは、音符の下にひらがなで歌詞が書かれているため、歌詞の内容をイメージするのが容易ではないことがある。歌詞を漢字混じりの文に書き直すことは、音楽の内容を理解するためには有効な方法である。歌詞の内容を理解して歌うことと、明瞭な発音で歌うことは別の技術ではあるが、聴くことによって歌を覚える子どもへの配慮としては、どちらも重要な問題である。

6. おわりに

梅本は「子どもにとって歌うことは音声の遊びであり、大人と違って遊びが生活の中心となっている子どもにとっては、歌うことも、音を鳴らすことも、生活にとって、また成長にとって必要不可欠の精神的栄養となっている。」と述べている。本稿で例に挙げた「おはよう」「おべんとう」「歯を磨きましょう」「さよならのうた」「お帰りの歌」などは、決して子どもたちにとって歌うことを楽しめるような曲ではないし、子どもの音楽性を豊かにするために適切な曲だとも思えない。しかし、毎日繰り返して歌われるが故に、その曲が子どもたちに与える影響は大きい。子どもたちに音楽の指導をする時の保育者は、音楽教師としての役割を意識するべきであると筆者は、考える。実習生に現職教員と同じ保育展開力を求めてはいけませんが、子どもたちの音楽的発達を阻害しない程度の技術を獲得した上で、実習に臨めるように育てなければならないと考えている。

保育者養成課程でカリキュラムに用意されているピアノに関わる科目は、決してピアニストを目指す学生のためのものではない。演奏する度に異なる指で弾くなど、不適切な指づかいで弾いてしまうのは、音楽の構造を理解していないことに原因がある。どの音を何の指で弾こうとするのかを自覚しながら練習することで、mis-touchは少なくなるのである。盲目的な練習や機械的な練習は能率が悪く、実習の準備としての弾き歌いの練習ばかりに多くの時間を費やすことができない学生にとって、効率の良い練習をするためには、それまでに学生が獲得した技術を有機的に結び付けようとする力が必要であり、その努力

によって大きく成長するのである。

安心して弾き歌いができるという自信が、実習生の不安を解消する一助となることは確かである。

なお、本論文は、埼玉学園大学共同研究助成を受けた「教育実習と事前事後指導のあり方」の、研究成果の一部である。（共同研究者：坂田知子、志村聡子、布村育子）

(1999.3.5)

- 4) 小林仁『ピアノの練習室』（1988.7.30）
- 5) 西園義信『小学校音楽科カリキュラム構成に関する教育実践学研究』風間書房（2005.1.31）

注

(1) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910.himより

(2) 平成21年度より子ども発達学科に名称変更

(3) 長島は、学校音楽教育研究Vol.13（日本学校音楽教育実践学会紀要）P.200～201「音楽教師に期待される資質・能力の広がりと深まり—音楽科授業実践力評価スタンダードの構想—」の中で、大きく3つの能力を挙げている。1. 授業構想力（事前に子どもたちの学習の可能性を想定し、適切な音楽授業を準備する能力群。）2. 授業展開力（授業構想力を踏まえながら、子どもたちと関わる授業実践の場で臨機応変に発揮される能力群。）3. 授業評価力（自分の授業を批判的に分析し、その成果と課題を明らかにする能力群。）であるが、筆者は、「音楽教師」を「保育者」に置き換えて考えた。

(4) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910.himより

I 5. 教員養成・免許制度の改革の方向

(5) 関東短期大学研究紀要第34集（1990.3.10）

参考文献

- 1) J.L.マーセル著・美田節子訳『音楽的成長のための教育』音楽の友社（1971.6.30）
- 2) J.L.マーセル著・美田節子訳『音楽教育と人間形成』音楽の友社（1967.12.25）
- 3) 梅本堯夫『子どもと音楽』東京大学出版会